

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービスにこり		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 1日		～ 2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		～ 2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケアがある中でも“生活と体験を止めない支援	利用児の医療的ケアや体調に応じた看護職員の配置を行い、日常生活の中で無理なくケアが実施できる体制を整えている。バイタルチェックや状態観察を日常的に行い、小さな変化にも気づけるようスタッフ間での情報共有を徹底している。また、医療機関や訪問看護と連携し、必要時には迅速に相談・対応できる体制を確保している。	医療的ケアに関する内部研修や事例共有を定期的に行い、職員全体の対応力向上を図る。ヒヤリハットやインシデントの蓄積・振り返りを通して再発防止に努め、安全性の高い支援体制を継続的に構築していく。また、多職種連携を強化し、医療・福祉双方の視点から支援の質を高めていく。
2	リスク管理を前提に「できる方法を設計している」	「できない理由」ではなく「どうすればできるか」を前提に、子ども一人ひとりの状態に応じた支援方法を検討している。医療的ケアの有無に関わらず、同じ活動に参加できるようリスク管理と支援調整を行い、子どもが主体的に活動に関われる環境づくりを意識している。	個々の特性や興味関心の把握をより深め、成功体験につながる活動設計を強化する。また、活動内容の幅を広げるとともに、地域資源の活用や外出機会を増やし、より多様な体験機会の提供につなげていく。
3	個別対応+運営として再現性がある体制	家庭の状況や突発的なニーズに応じて、スケジュール調整や送迎対応等を可能な範囲で柔軟に行っている。利用児・保護者の状況を踏まえた個別対応を行い、安心して利用できる環境づくりを意識している。	安定した人員配置と業務の標準化を進め、柔軟な対応を維持しながら持続可能な運営体制を構築する。また、スタッフ間での情報共有や引き継ぎ体制を強化し、誰が対応しても一定の支援が提供できる仕組みづくりを進めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境(スペース)	既存の建物を活用しているため、利用児の成長や活動内容の多様化に伴い、空間的な制約が生じている。	活動内容に応じた空間の使い分けやレイアウトの見直しを行い、限られた環境の中でも安全かつ効果的な支援が行えるよう工夫していく。
2	設備(姿勢保持・活動支援)	成長に伴い既存のクッションや座位保持用具では対応が難しいケースが増えており、個々に適した備品が不足している。	年齢や身体状況に応じた備品の整備を進め、姿勢保持や活動への参加がしやすい環境を整えることで、より質の高い支援につなげていく。
3			

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日						回収数	
こどもデイサービスにこり		2026年 4月 10日						利用児童数	9
								回収数	5
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%							
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	100%							
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%							
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%							
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%							
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%							
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%							
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%							
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%							
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100%							
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	89%				11%			
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%							
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%							
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	100%							
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	100%							
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100%							
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%							
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	100%							

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	100%				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	100%				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	100%				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100%				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	100%				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	100%				子どもが楽しみにしているのが分かるので罪悪感なくお願いできて助かる。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%				とても満足している。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		こどもデイサービスにこり				公表日	2026年 4月 10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	55%	45%	整理整頓を徹底し、限られた空間の中でも安全かつ活動しやすい環境づくりを行っている。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		46%	54%	配置基準および医療的ケア区分に応じた看護師配置を行い、安全な支援体制の確保に努めている。	実際の支援場面では人手不足を感じる場面もあるため、活動内容や子どもの状態に応じた柔軟な人員配置を検討していく。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		91%	9%	子どもが主体的に行動できるよう、分かりやすい環境設定を意識している。	絵カードや視覚支援など、多様な感覚に働きかける工夫を取り入れ、より理解しやすい環境づくりを進める。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		100%		毎日の清掃・消毒を徹底し、清潔で安心できる環境を維持している。	定期的な大掃除や環境点検を実施し、より快適な空間づくりを強化する。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		100%		個々の特性に応じて、気持ちを落ち着かせるための環境配慮や、集中して活動できる環境設定を行っている。	子どもがより安心して過ごせる空間づくりについて、職員間で継続的に検討・改善を行う。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	100%		共有ツールや個別での意見収集を通じて、業務改善に取り組んでいる。	職員全体での振り返りや検討の機会を確保し、組織的なPDCAサイクルの強化を図る。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		保護者からの意見を職員間で共有し、改善に向けた検討を行っている。	意見をより迅速かつ具体的に業務改善へ反映できる仕組みづくりを進める。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		職員の意見を共有アプリ等で収集し、業務改善につなげている。	意見交換の場をさらに活性化し、多様な視点を取り入れた改善を推進する。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	91%	9%	外部からの意見や来訪者の視点を取り入れ、業務改善につなげている。	外部評価をより体系的に取り入れ、継続的な質の向上につなげる。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	91%	9%	法人内外の研修機会を活用し、職員の知識・技術向上に努めている。	研修内容を実践に結びつける仕組みを整え、支援の質向上へとつなげていく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	91%	9%	職員間で意見を出し合いながら支援プログラムを作成している。	より多種類の視点を取り入れ、プログラムの質向上と多様化を図る。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%		保護者との連携を密に行い、ニーズを把握した上で計画作成に反映している。	より客観的な視点も取り入れながら、多角的なアセスメントの質向上を図る。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		多職種で発達評価を行い、共通理解のもと支援計画を検討している。	職員全体の理解の深まりと参加意識の向上をさらに促進する。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		支援計画を全職員で共有し、日々の支援に反映している。	共有内容の理解度に差が出ないように、確認・振り返りの機会を強化する。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		独自の発達評価表や日々の観察を通して子どもの状態把握を行っている。	評価の精度向上と標準化を図り、より質の高いアセスメントにつなげる。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		ガイドラインに基づき、本人・家族・地域を含めた支援内容を設定している。	各支援領域のバランスを意識しながら、より具体的な支援内容の充実を図る。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		活動プログラムの立案を行い、日々の支援に反映している。	保育士以外の職種も積極的に関与できる体制づくりを進める。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		子どもの状況に応じて活動内容を柔軟に調整し、飽きのこない工夫を行っている。	年間を通じたプログラムのバリエーション強化を図る。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%		個別活動と集団活動を組み合わせる支援を行っている。	個々の発達段階に応じた活動バランスの最適化を図る。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	91%	9%	共有ツールを活用し、支援内容や役割分担の共有を行っている。	対面での打ち合わせ機会を確保し、より円滑なチーム連携を強化する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	82%	18%	支援後の気づきを共有ツールで共有している。	振り返りの場を設け、より深い検証と改善につなげる。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		日々の記録を徹底し、支援の振り返りに活用している。	記録内容の質を高め、より具体的な改善につなげる。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		定期的にモニタリングを実施し、支援計画の見直しを行っている。	モニタリングの質を高め、より実効性のある見直しにつなげる。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		適切な職員が会議へ参加し、情報共有を行っている。	参加職員の知見を広げ、より質の高い連携を目指す。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		関係機関と情報共有を行いながら支援を行っている。	連携頻度と内容の充実を図り、より一体的な支援体制を構築する。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		移行支援において関係機関と情報共有を行っている。	より計画的な移行支援体制の整備を進める。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		就学に向けた情報共有や支援を行っている。	就学先との連携強化と支援内容の継続性向上を図る。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	73%	27%	必要に応じて関係機関と連携している。	日常的な交流機会の創出を検討する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		保護者との連絡を密に行い、共通理解を図っている。	情報共有の質と双方向性の向上を図る。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		個別に相談対応を行い、助言や支援を提供している。	家族支援プログラムや研修機会の充実を図る。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		利用開始時に丁寧な説明を行っている。	継続的な情報提供と理解促進を強化する。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		日々の関わりの中で意向を把握している。	意向把握の仕組み化と記録の精度向上を図る。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%		計画内容の説明と同意取得を適切に行っている。	説明内容の分かりやすさの向上を図る。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		個別相談を通して助言を行っている。	相談機会のさらなる充実と支援内容の体系化を図る。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%		イベント等を通じて保護者同士の交流機会を設けている。	継続的な交流機会の仕組み化を検討する。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		信頼関係の構築に努め、相談しやすい環境づくりを行っている。	対応体制の明確化と迅速性の向上を図る。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		SNS等を活用し情報発信を行っている。	発信内容の質と分かりやすさの向上を図る。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		個人情報の適切な管理を行っている。	管理体制の継続的な見直しと職員への周知徹底を図る。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		個々に応じたコミュニケーション手段を活用している。	多様な手法の導入と職員スキルの向上を図る。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%		地域イベントを開催し、地域とのつながりを築いている。	日常的な地域交流の機会を増やす。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		各種マニュアルを整備し、職員に周知している。	保護者への周知と実効性の向上を図る。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		定期的に避難訓練を実施している。	実践的な訓練内容への見直しを行う。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		健康状態等の情報を事前に把握し共有している。	情報更新の精度向上を図る。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		アレルギー情報に基づき対応している。	医療機関との連携強化を図る。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		安全計画に基づき支援を行っている。	研修・訓練の充実を図る。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		安全計画について保護者へ周知している。	理解促進のための説明方法を工夫する。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		ヒヤリハット事例を共有し再発防止に努めている。	分析と仕組み化を強化する。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		虐待防止に関する取り組みを実施している。	日常的に意識できる体制を強化する。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%		身体拘束に関するルールを整備している。	職員間の理解統一と保護者説明の充実を図る。